

ひがしの子

令和4年1月28日

岐阜市立岐阜東幼稚園

園長 藤井 佐由美



先日、たいよう組の子どもたちがドッジボールに誘ってくれたので、一緒にドッジボールを楽しみました。1回戦は、私が入れてもらったチームが勝ちました。すると、一人の男児が、悔しくて涙しました。その子の思いは、「大人が一人しかいなくて、大人が入ったらそっちが強いに決まってる・・・」と言います。周りの子どもたちは、「なるほど・・・」という顔をして、「そしたら、園長先生強いから、園長先生一人対子ども全部でやったらどう？」とアイデアを出しました。それを聞いていた子どもたちは、「そう

だ！そうだ！」と盛り上がります。私は、リアクションのつもりで、「え～？一人で～？1回でも当たったら、負けちゃうってことかあ！！」と大げさに言ってみました。すると、最初に涙した子どもが、「それじゃあ、無理だよ。一人対みんななんて、正しいドッジボールじゃないもん・・・」と言います。私は、この言葉を聞いたとき、『う～ん、これは、きっと、私が不安そうに、大げさに反応したから、私のことを少し可哀そう・・・と思ってくれたのかな・・・』と読み取りました。自分の心が傷つきながら、相手の反応を見て、そこも考えて発言できるその心根の育ちにキュンとさせられました。

みんなで相談した結果、「大人をもう一人、呼んできて分かれてチームに入ってもらおう。」ということになりました。たいよう組の担任が、仲間入りして、更に盛り上がりました。子どもたちは、本気のまなざしで狙ってくるので、結構ドキドキします。

1回戦は、私のチームが勝利しました。すぐさま、「もう一回やろう！！」ということになり、2回戦に突入。次々と当てては、当てられ、また当たりと、とうとう最後は、担任と私の一騎打ちになってしまいました。そして、担任は、私に忖度することなく本気で当てにきて、とうとう私は当たってしまいました。(笑)

なんだか、私も心を動かされ、小学生の頃、毎日のように友達と遊んだドッジボールや肉弾（知ってます？）などのことを思い出しました。記憶ではなく、この子たちの心の中に、毎日遊んだその日の風の音、空の色、におい、誰かの笑い声、真剣なまなざし、動いた感情など、残るものがあるんだろうな・・・と思いました。

毎日がきらきら輝いています。



《2月の保育について》

【3歳児】

- 先生や友達と一緒にいろいろなごっこ遊びを楽しむ。
- 自分の身の回りのことに気づき、やってみようとする。



幼稚園のいろいろな先生に親しみをもち、職員室や年中・年長組の部屋に、先生や友達と誘い合っ
て気軽に出かけて行く姿が出てきます。(ホー
ル、職員室のソファなど、こあら組の子ども
たちのお気に入りの場所で、ごっこ遊びの家にな
ったり学校になったり、ピクニックの場になっ
たりしています。)

年中・年長児の劇や歌などをお客さんになって見
ることで、真似したいと思ったり、お面や服装
(衣装) など使っている物に興味をもち作りたい

と思ったりするようになります。

自分のなりたい役のお面を作り、身に付けたりこ
とばのやりとりをしたりして、簡単なごっこ遊び
や劇遊びを楽しめるように、子どもたちの好きな
話や曲などを準備していきたいと考えています。
また、戸外では、体を動かして多くの友達と遊ぶ
ことが楽しめるよう、鬼ごっこやゲームなどを提
案していきたいと思います。

朝の身支度や着替え、給食の準備や片づけ、うが

い手洗いなどの基本的な生活習慣について、自分からやってみようとする姿も見られるよう

になります。認めたりほめたり、一つ一つ丁寧に
確認したりしながら定着していくようにしたいと
思います。

また、様々な言葉を覚えて使ってみようとしま
す。自分の気持ちを伝えること、何かに感動した
ときに表現すること、それがとても楽しいと感じ
時期でもあります。絵本や歌などから言葉を覚え
ることもありますので、親しんでいけるようにし
ていきたいと思います。



【4歳児】

- 自分の思いを出したり、相手の思いを聞いたりしてそれに応じようとする。
- 考えたり工夫したりしたことを、いろいろな方法で表現することを楽しむ。

普段の遊びの中で、また楽しみ会で何をしたいのか、どのようにしたらいいのかなどについ
て話し合い、自分の思いを出したり、相手の意見を聞いたりするようになります。

また、友達と一緒にごっこ遊びや劇遊び、リズム遊び（楽器遊び）などを繰り返し楽しむようになります。



そうした中で、やりたいことや意見が違ったり、うまくいかないことやルールやきまりを共通理解できなかったりするということが出てきます。

友達に指摘されて自分の行動を振り返ったり、先生と一緒に考え直したりするという経験を積み重ねていくことで、みんなと一緒に楽しむことができるようになっていきます。

友達の気持ちを受け止め、共に考えようとする姿や友達の

がんばりを認める姿などを取り上げ、周りの子どもたちに伝えていきたいと考えています。

氷や霜柱などに気づいたり、感触を味わったりしながら、自然に対して不思議だと思ふ気持ちが芽生えてきます。引き続き、氷や霜柱を先生や友達と一緒に探したり、氷を作ろうとしたりするなど、自然を発見する喜びを味わえるようにしていきたいと思います。



【5歳児】

○クラスの共通の目的に向かって自分なりの力を発揮し、みんなでやり遂げた満足感を味わう。

○雪や氷など冬の自然とかかわり、驚きや発見の喜びを味わう。

楽しみ会で何をするか、どのようにするのか、必要な物は何か、どうやって作るかなどの相談をしたり、協力して必要なものを作ったりするなど、共通の目的に向かって取り組む姿が見られます。

話し合いの場面では、自分たちで納得がいく遊び方やルールを決めるなど、みんなで解決していこうとするようになります。子どもたちだけで話し合える場面も出てきます。

自分の考えを受け入れられたり、時には拒否されたりすることもあります。友達と思いが異なったり、葛藤したりすることもあります。今までにも、そうした経験を積み重ねながら、友達と一緒にする楽しさや喜びを味わってきたことが、互いに受け入れたり伝え合ったりする、きまりやルールを守ったり友達と作り変えたりする、折り合いをつけたり、共感したりする、協同的な遊びをすることなどにつながっていきます。





就学前のこの時期に、こうしたことを十分に経験していけるよう、十分に時間を取り、教師が一人一人の思いを受け止めながら見守っていったり、一緒に考える仲間になったりしていきたいと考えています。一人一人の活躍の場、よさを引き出せる場面を作っていくと共に、みんなでやり遂げたという満足感を味わえるようにしていきたいと考えています。雪や氷、霜柱、息が白くなることなど冬の自然とかわる場面では、不思議に思ったことを図鑑で調べたり、自分たちで確かめたりすることができるようにしたいと思います。



お知らせとお願い

☆楽しみ会に向けて

それぞれのクラスでは楽しみ会に向けて劇遊びをしたり、歌を歌ったり、楽器遊びをしたりしています。《2月の保育について》にもありますが、学年により、取り組み方は異なります。幼稚園では、『きちんとやらせる・見栄えを優先する』ということではなく、子ども一人一人が何をしたいのか、何を楽しもうとしているのかということを見極め、その子らしい表現を大切にしていきたいと考えています。そして、当日までの子どもたちの取り組み、それから先につながる姿を育ちと捉え、育ちとなるよう援助していきたいと思ひます。

大勢の保護者の方々の前に立ち、緊張する子もいることと思ひます。ふだんとは違う姿が出ることもあるかと思ひます。保護者の方々の笑顔や拍手、やさしい眼差しが、子どもたちの緊張を和らげてくれると思ひます。ご協力、よろしくお願ひします。

楽しみ会当日には、保護者の方々からも、子どもたちに向けて「お楽しみ」を披露していただけるようです。ご多用の中、ご準備くださりありがとうございます。保護者の方々の「一生懸命」が子どもたちの「楽しい」「うれしい」「すてき」「やってみたい」などの気持ちにつながることを思ひます。誰でも参加しやすいもので、ご無理のないようによろしくお願ひします。

☆バザー会計からすてきなおもちゃが届きました！！

文化委員の方たちが、準備から事前販売、当日販売、事後販売、会計まで、熱心に活動してくださったおかげで、素敵なおもちゃ「GRAPAT」を購入することができました。

詳細は、学年末に文化委員さんの方から、お便りを配布していただける予定です。



ほんの少しだけ紹介しておきます。まずは、なつめ組さんから遊び始めます。

